

プレスリリース日本語訳

**プレスリリース：2022年11月11日（金）00:01 GMT 解禁**

## 世界の CO<sub>2</sub> 排出量に減少の兆しなし

グローバル・カーボン・プロジェクトの科学チームは、2022年の世界の CO<sub>2</sub> 排出量は依然として記録的な高水準にあり、地球温暖化を 1.5°C以下に抑えるために早急に必要とされる排出量の減少について、その兆しは見られないと発表しました。

また、現在の水準で排出が続けば、9年以内に地球温暖化が 1.5°Cを超える可能性は 50%であると推定しています。

今回発表された評価報告書では、2022年の世界の CO<sub>2</sub> 排出量は 406 億トン（40.6GtCO<sub>2</sub>）になると予測しています。化石燃料消費による CO<sub>2</sub> 排出量は 2021 年比で 1.0%増加して 36.6GtCO<sub>2</sub> となり、2019 年の COVID-19 流行以前の水準をわずかに上回る見込みです\*。土地利用変化（森林伐採など）による排出量は、2022 年は 3.9GtCO<sub>2</sub> になると予測されています。

石炭と石油の使用による排出量は 2021 年の値を上回ると予測されていますが、石油の使用が総排出量増加の最大の要因となっています。この石油使用による排出量の増加は、COVID-19 パンデミックによる規制から遅れて回復した国際航空部門が大きな要因として挙げられます。

主要排出国の 2022 年の排出量の見通しはそれぞれ異なります。中国 (0.9%) と EU (0.8%) で減少、米国 (1.5%) とインド (6%) で増加、その他の地域全体では 1.7%増加すると予測されています。

50%の可能性で地球温暖化を 1.5°Cに抑えることのできる”CO<sub>2</sub> 予算”（許容される累積排出量）の残りは 380GtCO<sub>2</sub>（2022 年の排出量の水準が続けば 9 年後に超える）に減少し、また、2°Cに抑えることを目標とした場合では、1230GtCO<sub>2</sub>（2022 年の排出量水準で 30 年後に超える）に減少しています。

\* これらの試算には、年間 0.8GtCO<sub>2</sub> のセメント炭酸化による吸収が含まれます。

2050年までにCO<sub>2</sub>排出量をゼロにするには、毎年約1.4GtCO<sub>2</sub>の減少が必要です。これは2020年のCOVID-19パンデミックによるロックダウンで見られた排出量の減少に匹敵するもので、求められる行動の難しさを浮き彫りにしています。

CO<sub>2</sub>を吸収し貯蔵する陸域と海洋は、CO<sub>2</sub>排出量の約半分を吸収し続けています。これらの海洋と陸域のCO<sub>2</sub>吸収量は、大気中のCO<sub>2</sub>の増加に伴って増加し続けていますが、気候変化により2012年～2021年の10年間で、海洋で4%、陸域で17%吸収増加の速度が低下したと推定されています。

今年のCO<sub>2</sub>収支で明らかな通り、長期的には化石燃料消費による排出量の増加速度は鈍化しています。2000年代、平均上昇率がピーク時には年率+3%に達していましたが、過去10年間の上昇率は年率約+0.5%となっています。

エクセター大学、イースト・アングリア大学 (UEA)、国際気候研究センター (CICERO)、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン校などの研究チームは、この減速を歓迎しつつも、「我々が必要とする排出量の減少にはほど遠い。」と述べています。

今回の調査結果は、エジプトで開催中のCOP27において、世界の指導者たちが気候危機について議論する中で発表されました。

この研究を主導したエクセター大学グローバルシステム研究所のPierre Friedlingstein教授は、「早急な削減が求められる中、今年も依然として化石燃料消費によるCO<sub>2</sub>排出量の増加が見られている。」と述べています。

さらに、「いくつかの前向きな兆候はあるものの、COP27に参加する指導者たちは、地球温暖化を1.5°C近くに抑える気があるならば、意味のある行動を取らなければなりません。『世界のCO<sub>2</sub>収支』に示される数値は、気候変動対策の進捗を監視するものですが、現在のところ、必要とされる対策の成果を確認することはできていません。」と述べています。

UEAの環境科学部のCorinne Le Quere王立協会研究教授は、次のように述べています。「我々の調査では、パンデミックと世界的なエネルギー危機を受け、今年の排出パターンに乱れがあることが明らかになりました。

もし各国政府がクリーンエネルギーへの投資を大幅に加速させ、かつ、木を切るのではなく、植える対策をしていけば、世界の排出量は急速に減少し始めるでしょう。

我々は今、転換期を迎えています。地球全体で気候を安定させ、連鎖的なリスクを軽減するためには、今世界で起きている出来事によって、緊急かつ持続的な排出量削減の必要性から目をそらすことがあってはなりません。」

土地利用の変化、特に森林伐採は、大きな CO<sub>2</sub> 排出源となっています（化石燃料消費による排出量の約 10 分の 1）。インドネシア、ブラジル、コンゴ民主共和国の排出量は、世界の土地利用変化による排出量の 58% を占めています。

森林の再生や新たな森林生成による CO<sub>2</sub> 吸収は、森林伐採による排出の半分を相殺するものです。研究者らは、森林伐採を止め、森林を回復・拡大する努力をすることが、排出量を削減し、森林による CO<sub>2</sub> 吸収を増やす大きなチャンスに繋がるとしています。

評価報告書「世界の CO<sub>2</sub> 収支」では、大気中の CO<sub>2</sub> 濃度は 2022 年に平均 417.2ppm に達し、産業革命以前の水準から 50% 以上も上回ると予測しています。

2022 年の年間 CO<sub>2</sub> 総排出量は 40.6GtCO<sub>2</sub> と予測され、これは年間総排出量が過去最高となった 2019 年の 40.9GtCO<sub>2</sub> に迫る数値です。

評価報告書「世界の CO<sub>2</sub> 収支」は 100 人以上の科学者からなる国際チームによって作成され、CO<sub>2</sub> の発生源と吸収源の両面から評価が行われています。この評価報告書は、完全に透明性のある形で確立された手法に基づいて、毎年、査読付き論文として発表されています。2022 年版（第 17 回年次報告書）は、出版後にこちらで公開される予定です。

<https://doi.org/10.5194/essd-14-4811-2022>

以上

#### データへのアクセス

すべての資料、出版物、データ、図表（国別を含む）は、以下のリンク先で入手できます：  
<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1JL0ukEVVYQsiuCma5hRN7L0iXiZ5vW0F>

Global Carbon Atlas: <http://emissions2020.globalcarbonatlas.org>

ユーザー名：media

パスワード：fromxLSCEx2021

#### プレス・ブリーフィング

サイエンス・メディア・センターのオンライン・ニュース・ブリーフィングは、以下の通り開催されます。

- イギリス：11月8日（火）11:00GMT 連絡先：tom@sciencemediacentre.org
- ドイツ：11月8日（火）14:00 CET 連絡先: info@sciencemediacenter.de
- スペイン：11月8日（火）10:00 CET 連絡先: info@sciencemediacentre.es
- オーストラリア：11月9日（水）10:00 AEDT 連絡先: info@smc.org.au

### COP27 の関連イベント

- 国連記者会見および「世界の CO<sub>2</sub> 収支 2022 年版」の発表：11月11日（金）9:00（エジプト時間）（GMT 07:00） 於 COP27 記者会見会場（ルクソール・タバ地区）
- 「世界の CO<sub>2</sub> 収支 2022 年版」スケーリング・ソリューションと農業の役割：11月11日（金）16:45（エジプト時間）（14:45 GMT） 於 COP27 Room Osiris
- 「世界の CO<sub>2</sub> 収支 2022 年版」- 評価結果と熱帯雨林諸国およびパリ協定への影響：11月12日（土）11:00（エジプト時間）（09:00GMT） 於 COP27 熱帯雨林諸国連合(CfRN)パビリオン
- 「世界 CO<sub>2</sub> 収支 2022 年版」：世界気候サミットでの発表セッション：11月13日（日）16:00（エジプト時間）（14:00GMT） 於 CO27 パーク・リージェンシー（シャルム・エル・シェイク）

-----  
※この文書は、GCP が発表したプレスリリース（注釈を除く）を GCP つくば国際オフィスが翻訳したものです。

プレスリリース原文：

[https://cger-review.sakura.ne.jp/gcp-mock/pdf/20221111/GCB\\_2022\\_press\\_release.pdf](https://cger-review.sakura.ne.jp/gcp-mock/pdf/20221111/GCB_2022_press_release.pdf)

日本語訳の問合せ先：

GCP つくば国際オフィス [gcp@nies.go.jp](mailto:gcp@nies.go.jp)

<https://www.cger.nies.go.jp/gcp/>